

「宝塚市の地域振興としての国際化」
宝塚を世界の観光文化都市にするにはヤッパリ歌劇でしょ！

川崎 哲雄

欧州系企業に 32 年勤めて、多国籍の人間とお付き合いする機会があった。日本に駐在する欧米人は、日本法人が兵庫県にあったため大体神戸に住み、2~4 年の駐在期間にやたら日本文化に触れようとする。長い人は日本人の配偶者を娶り、帰国後は、庭に石灯籠のある日本庭園、窓に障子が違和感なく嵌った自宅で日本文化を満喫している。お邪魔すると、和洋折衷のリビングルームで柿右衛門や魯山人の器を見せられ、ライス・ワインで、うんちくを聞かされることになる。彼らは日本の文化・伝統に大きな魅力を感じていた。

今回のテーマは、海外からの観光客が日本に何を求めているかで考えてみた。昨今、若者文化としての **cool Japan** 「カワイイ」は注目されているが、広く長く受け入れられるかは不明で、今後の課題だと思う。やはり、あらゆる世代に広く継続的に受け入れられるのは独自性のある歴史的な日本文化だと思う。

無形文化代表の一つである歌舞伎は、まさに日本文化の凝縮であり、全てのお芝居を男性が演じるのはご存じの通りである。歴史的な衣装、邦楽、唄、台本、しきたり等、全てが和の世界で、歌舞伎座の東銀座にある小屋（巨大ビル）は地下の土産物屋から、周辺の和食店、築地近くの鮎屋、和装小物屋等、外国人にとってまさに **J-disney resort** のようなものである。更に上品で治安のよいお洒落な銀座にも隣接しており、都市生活、ショッピングと一体化出来る条件が揃っている。若者を **target** にしたクドカン・勘三郎による「リビングデッド」等の新しい試みも見られるが、やはり基本時代ものの伝統芸能である。

ここからが本題である。一方、われらの宝塚歌劇は、小林一三翁の理念のもと、基本、女性による日本人の為の歌劇である。海外公演も散発的に実施されているようであるが、基本、ファンは日本女性で、一部男性ファンに支えられている。演目は殆どが西欧の時代ものが多い。今回のテーマで海外の観光客が今の欧米型ファンタジー歌劇を目的に宝塚を訪問しているかどうかである。私見であるが、答えは **NO** である。

海外観光客に対する観光案内には必ず紹介されており、公式ホームページに **TAKARAZUKA review** として英語での **PR** もある。

ハードは出来ており、あとソフトである演題が外国人にとって魅力があるかどうかである。歌舞伎版西部劇をアメリカ人が望んで観るだろうか？東洋人によるシャーロックホームズを欧州人が観劇するだろうか？思うに講演内容が外国人の観劇集客に結びついていないと思っている。

提案は日本文化を踏まえた演題を、国際共通言語、英語で演じることである。

恒常的講演が難しいことは理解できるので、海外からの観光客を受け入れやすい時期に1年に一定期間限定して、海外からのお客様を集客する。日本時代劇の定期的開催 英語レシーバーでなく英語による講演をある時期に定期的実施する。隔週で国内向けと海外向けで講演内容を分けても良いと思われる。

「新撰組」「陽だまりの樹」など手塚アニメとの連携、幕末の京都を舞台にした侍劇でも近松心中ものでも大阪夏冬の陣、金太郎でも関西に関係する演題であれば日舞と邦楽を混ぜながら演じてみればよいと思う。女性による時代歌劇は非常に興味を引くと思う。パリの **review** より幅広い支持が得られると思う。

取り敢えず、宝塚国際観光協会に上記の英語歌劇プログラムを英語で **PR** する。さらにオーガスタ、ウイーン等の姉妹都市への **PR**、関係者の招待、宝塚近郊在住の外国人への **PR** を進める。宝塚市は歌劇を応援すると市のホームページで謳っている。市から発する海外への発信にも期待したい。

繰り返すが、一番の戦略は日本文化を感じさせる歌劇の演題を外国のお客様に英語で定期的に楽しんで頂くことを、時間をかけて着実に進めることである。ありきたりかもしれないが、これまで戦略的に海外観光客だけを意識した演目はなかったと思う。これは、引いては海外展開にも繋がる可能性も出てくる。

歌劇の街を取り巻く環境の整備も重要である。宝塚駅周辺のイメージは歌劇の街をイメージさせる雰囲気が出来ていると思うが、英語による案内及びサービスは十分ではない。倭の部分英語で理解出来るような配慮が必要である。

商品の英語表記、店舗の英語でのサービス、英語のアンケート用紙の配布を行うなど、通常の営業活動の中に英語を共存させる。各種商店で、翻訳サイト等の活用によるコミュニケーション力の向上、外国人観光客の受け入れ体制の整備を着実に継続的に進める。語学力は「継続は力なり **practice makes perfect!**」であり、時間を掛けた準備。環境作りが必要である。

更に周辺の中山寺の腹帯、清荒神の火箸、万願寺（川西市）の坂田公時/金太郎など、外国人が興味を引きそうな文化・文化財、儀式、それに伴う参道、和装小物店等の **tour map** を作成し、英語でインターネットによる広報活動を行う。

これに宝塚温泉が加われば、リゾート・スパの観光都市として、宝塚市を拠点としたバカンス拠点ができると思う。また宿泊施設は、寝具、食材などで海外の宗教・文化等を踏まえた「おもてなし」ができるように心掛ける必要がある。宝塚市は、関西の各空港も近く、神戸、大阪、京都、奈良にも日帰り観光ができ、関西の観光拠点のハブとして機能することが可能な立地環境である。

100周年を迎える伝統のある宝塚歌劇を宝塚市国際化のための中心として、国際観光都市としての裾野・幅を、じっくり時間をかけて広げて行くことを提案したい。海外からのお客様が安全で健全な街、宝塚で日本文化を満喫できる。これで国際観光拠点にならない理由がない。